

ISSN 0385-7476
SSK

164
1999
November



その研究と情報

1 特集◎

「チャレンジ」の挑戦

— 21世紀型授産施設の試み — 水谷昌史

ルポ◎

14 ビジョン99報告 小田浩一

21 「共用品が開く未来展」開催 高嶋健夫

27 ボランティア最前線◎

地元の利用者の声を反映する活動を 立花明彦
— 我孫子朗読の会 —

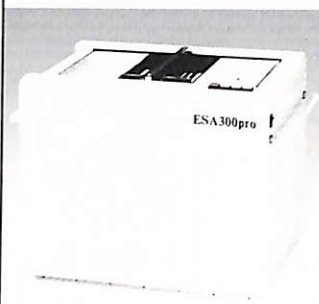
36 特別寄稿◎

ブリスタを訪れて 藤村美織

45 インフォメーション・コーナー

盲人用情報機器シリーズ

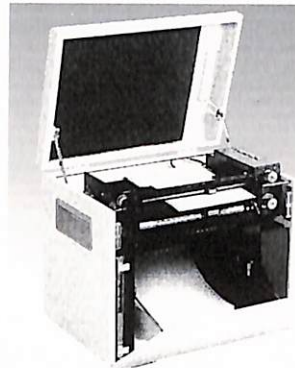
品質の良さは納入先に表れます。



ESA300Pro
点字ラインプリンタ
1ページ5秒!
最高速の業務用
点字ラインプリンタ

日本最高速の印刷スピードと両面印刷を実現。32マス22行をわずか5秒で打ち出し、ラインプリンタにありがちな紙のよれもなく、すばやく美しく仕上がります。

ESA721 点字プリンタ・プロッタ
点図表現も思いのまま。
定評ある高性能&多機能型



高速印字はもちろん、3点方式による点作図プロッタ機構（世界初）の搭載で、すぐれたグラフィック表現が可能。音も静かで、広くご愛用いただいています。

V-500 大量の用紙カットも、スムーズ&スピーディー



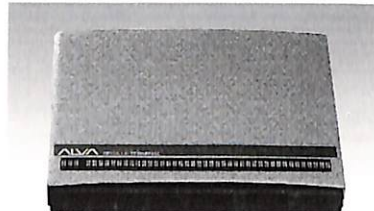
ページエンドと片耳（両耳）カット同時で1,000枚が15分で完了。操作状況が一目でわかる液晶パネル、ページとばし防止ストッカーなどかんたん操作で使いやすく、音も静かです。

PORTA-THIEL ポータ・ティール日本仕様
机の隣に一台、気軽なパーソナル・プリンタ



点字プリンタでは世界的信頼を誇るドイツ・ティール社との提携で生まれた、コンパクトサイズのパーソナルプリンタ。日本点字規格への対応はもちろん、すべて日本仕様です。

ALVA BRAILLE TERMINAL
ABT-340 (40+3キャラクター)
世界標準にアクセスできる
点字用ピンディスプレイ



MS-DOSをはじめIBM/OS2、ウィンドウズにも対応。オランダ・アルバ社特許のタッチカーソルにより、優れた操作性を実現しました。小型軽量で、ノートパソコンにも最適です。

各機器についての詳細、
その他取り扱い機器については、
弊社まで資料をご請求ください。



JTR Corporation

有限会社 ジェイ・ティー・アール

東京都北区浮間4-17-4

Tel.03-5392-0414 Fax.03-3967-8254

人間国宝、小林ハルさん100歳



盲目の女旅芸人、瞽女の最後の一人で人間国宝の小林ハルさんは、先ごろ100歳を迎え、これを祝う会が10月31日、新潟市で開かれました。

ハルさんは生後まもなく失明、幼いときから瞽女の道に入り、60年以上も歌や語りを聴かせる旅をしてきました。しかし、それは「福祉施設に入った今が一番幸せ」と語るほどに苦難の生活でした。

ハルさんはこの日、大勢の人からのお祝いのお返しにと1曲披露、引退して25年以上たつハルさんの瞽女歌が再び会場に響きわたり、その声量に拍手がなりやみませんでした。

(写真提供：毎日新聞社)

創設20周年で記念行事



大阪市西区にある日本ライトハウス盲人情報文化センターは、今年20周年を迎え、これを記念し、式典と記念講演・シンポジウム「情報と文化の新世紀へ——5年後の視覚障害者の情報環境を探る」が11月19日、同センターで開催されました。

同センターは、国内で一番古い歴史を持つ点字図書館で、20年前に現在地へ新築移転し、視覚障害者情報ネットワークの推進と幅広い情報サービスの提供に努めています。

当日は福井哲也さんの記念講演をはじめ、弱視者、盲ろう者を交えたシンポジウム、最新機器の実演などが行われ、230人の参加者が熱心に耳を傾けていました。

(写真提供：日本ライトハウス)

雇用連結成20周年

全日本視覚障害者雇用促進連絡会（雇用連）は、今年発足20周年を迎え、去る10月24日、東京で記念の集いを開催しました。第1部は記念講演会が、第2部にはレセプションがもたれ、レセプションの席上では20年を支えてきた役員、運動に携わってきた全国の人々40人からの祝辞と共に、発足来の思い出等が披露され、盛会裏に幕を閉じました。また20周年記念誌として『ここまで来た 視覚障害者の雇用・就労』を発行。雇用運動に関わった多くの方が20年を振り返り、その足跡や成果、今後の活動への提言などをまとめています。



挨拶に立つ雇用連・竹下会長

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

ある地方新聞で、長年子宝に恵まれなかった視覚障害夫婦に子どもが誕生し、その育児の様子を紹介する短期連載が組まれました。心配されていた視覚障害が新生児には認められなかったことを喜ぶ家族の声を紹介した記事では「視力障害なかった、万感こもる祖父母の歓声」「こっちょ、こっちょ。見えとる」という大きな見出しが踊っていました。確かに家族にとってそれは大きな安心であり、喜びであったことでしょう。「万感こもる祖父母の歓声」も事実であったかもしれません。しかし、これを大見出しにした取材記者、デスクの視覚障害に対する認識度には落胆します。

ふと、かつて好本督が点字毎日の創刊を提唱するにあたり、当時の毎日新聞英国特派員・河野三通士^{こうのみつし}に語った「新聞記者は意識・無意識を問わず罪を犯している……」の一連の言葉が思い出されます。改めて、この言葉の重みを感じます。 (立花明彦)

視 覚 障 害 1999年11月 No.164

年間購読料 4,200円 (送料とも)

発行日 1999年11月1日

編集人 立花 明彦

(連絡先) 日本盲人福祉研究会 (文月会)

〒167-0043 東京都杉並区上荻2丁目37番10号
Keiビル3階

電話 (03)5310-5051 (代)

FAX (03)5310-5053

<http://www.normanet.ne.jp/~fumizuki/>
振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6-26-21

印刷所 株式会社 大活字

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-1-9

電話(03)5282-4361